

中部ニユース

シネスコ版

道新 No. 137
高新 No. 222
新愛媛 No. 60
甲子新 No. 63

聖火祭 新-130頁 (本編177頁へ追加)

本編同い

No. 387

36. 6. 16

三次鶴飼 いはじり - 三次-189頁 (本編空の自衛、エリ習之)

一、静かなる恐怖

——日本住血吸虫病 静岡・山梨——

静岡県富士川町に、通称「たんぼかぶれ」と呼ばれていた奇病が日本住血吸虫病と判明。病原虫が寄生する宮入員の撲滅に自衛隊も火炎放射器を持ち出して一役買っています。

この恐ろしい日本住血吸虫を運ぶ宮入員は、上流の山梨県から下ってきたのではないかと推定され、有病地甲府盆地には、卵を持った患者が六万人と言われています。

この虫が体内に入ると、腸から肝臓に流れる血管に住みつき、栄養分を吸収して、血管を閉塞するため腹に虫がたまり手足にむくみがくります。

この病気の発生は、田植時が多く、宮入員からぬけたセルカリアという日本住血吸虫の幼虫が、手足の皮膚から侵入して、感染するのです。これは、僅か、〇・三ミリというセルカリアを七〇倍の顕微鏡でとらえたもの。

しかし、これといって、治療にきめ手のない現在、コンクリート溝渠や薬剤散布で予防するなど、風土病の対策としては、余りにも淋しい現状です。

一、強化さる空の自衛

——石川・北海道——

防衛二法の改正に伴い石川県小松市に第六航空団が誕生しました。基地開きの六月十一日には県下から十万人の人数が繰りこみ大変な賑いとなりました。

空の護りの中枢はレーダー基地にあり北海道当別の基地でも四六時中レーダーが活動。空に網の目をはっています。国籍不明機を発見すれば直ちにジェット戦闘機が出撃するなど、戦時さながらの雰囲気です。憲法と世論の谷間をいつのまにか空の守りも押しも押されぬ実力をそなへて来たようです。

カメラスケッチ

一、審判物語

セ・パ両リーグもオールスター前の勝負どころを迎えていよいよ激しい首位争いのきざしをみせてきました。それにつれて今日の試合に首位をかける両軍ナイン、それにもまして監督の異常なまでのファイトぶりには、試合をあずかる審判諸氏もより以上の自信と忍耐が要求される昨今です。

ある瞬間には絶対の自信をもって判定を下す球審、それは自信に満ちあふれさつそうとしています。だが次の瞬間、野手の捕球がワン・バウンドかダイレクトかをめぐって、ナイン対審判の激しい攻防戦

しかし審判は何時の場合でも絶対公正かつ權威をもって試合の進行をあづかっているのです。

最近では甚の草野球もプロ野球なみ、東京都内の各区には野球連盟の中に立派な審判部が出来ています。審判服は言うに及ばずこれぞまさに玄人はだし……スタイルばかりではありません。キャリアの方も仲々の年が入っています。

ここに登場する岡田一郎さんは神宮外苑の草っ原をホーム・グラウンドとするその道十三年というフーリー・アンパイヤー、一試合三〇〇円也のお代で両軍を仲良く両成敗。

注文がとれなかった時には木蔭でルール・ブックをひもどく勉強家でもあります。

6pp or

322 or

125 or

241 or